

市民の財産の無料譲渡は許されない

日本理化工業所に栃木市が乗っ取られる？(市民の声)

1、そもそもの始まりは、岩舟運動公園遊休地の売渡から！

始めは岩舟運動公園東側の遊休土地を、日本理化工業所株式会社へのサッカー練習場の売渡から始まった。岩舟町時代にテニスコートを作る予定で取得した土地でした。そこに目を付けた日本理化工業へサッカー練習場を作る条件で売り渡したのは5年前ぐらいである。そこに練習場ができた。選手は汗を流してきたが、J1、J2(栃木SC)、J3、JFC、その下の関東サッカーリーグいわゆる5部の最下位クラスに甘んじている。関東リーグを脱出できないでいる。心配事・・・いかに上位に上げられるのかの方法は？

2、赤字、負債だらけの観光農園買収が次の手だった。

その後日本理化工業所が岩舟観光農園の株式取得、筆頭株主となり、買収を完成させた。世間では赤字の観光農園をよく買ってくれたとの賛辞さえ出るくらいでした。心配事・・・観光農園は栃木市に1億5千万円の借金があり、利子は払われている。元金は払っていないようだ。赤字続きで、転売する心配もある。株式の約90%を日本理化工業所が持っている。転売されても誰も文句言えない。

3、サッカー練習場への土砂流入 災害公費で復旧

サッカー練習グラウンドに台風19号で土砂が流入し、近隣山林地主に2580万円の工事費を日本理化工業所が要求した。しかし自然災害であり地主とは合意できず、結局災害事業公費を使い復旧させた。

心配事・・・今回は地主に負担はなかったがいつ災害が起き 損害賠償があるか心配である。(山林地主の声)

4、サッカースタジアム 10 年間で

使用料、固定資産税 1 億 6000 万円を無料にする

岩舟運動公園にサッカースタジアム建設が浮上し 2020 年 3 月 23 日覚書を締結した。スタジアム使用料 1300 万円、固定資産税推定 300 万円合計約 1600 万円を 10 年間徴収しない。無料で貸すという驚くべき内容、10 年間で 1 億 6000 万円です。心配事・・・スタジアムの所有権は日本理化工業所。いつでも売ることができる。栃木市が期待をかけているようにならないことも考えられる。

5、無料にするために条例まで改正する・・・市は誰のためにあるのか

公園条例を改正しないで貸し出す違法状態が 6 ヶ月も続き、後追いで 9 月議会に改正を賛成多数で成立させた。この結果無料使用が決定した。法令無視も甚だしい違法状態が 6 ヶ月続いた。「これが行政と言えるのか」と多くの非難が寄せられた。心配事・・・転売によって栃木市の土地はどうなるのか。覚書には更地で返還すると書いてあるが？

6、ゆらら館の指定管理料まで受注する日本理化工業所

岩舟町福祉センター(ゆらら館)の指定管理まで日本理化工業に落札させる。今まで宮ビルと地元のNSリンクが受けていたが、実績もない日本理化シェアードソリューションズが、宮ビルと共同で落札した。しかも一番高い入札額だったが総合評価で逆転した。総合評価とは提案書に基づき当局が評価するので手心は加えられる。？心配事・・・地元の専門業者のNsリンクがいなくなり、経験のないトレーニング指導ができるのか？出来ないで見ているだけの批判有り。

7、極めつけは旧小野寺北小の敷地、校舎をタダで譲渡

旧小野寺北小校舎、敷地を無料で日本理化工業所に譲渡する。日本理化と市当局の関係がここまで来たことを、市民の大多数が疑問に思っている。多くの非難が届いている。市民の財産をなぜ無料で譲るのか。しかし当局は2年以上前から地元に入り

準備をしてきた。その手口は極めて巧妙である。当局は地元で学校がなくなり過疎化が進むことを盛んに煽動し、地元役員の危機感をあおり、要望書なるものを15人の役員に出させる。議会に公表したのは今年の1月15日であった。議会と市民は蚊帳の外であった。しかし議員多数は怒らなかった。

市議会は、3月26日反対8、賛成20で可決し無償譲渡が決まる。

賛成の理由は、地域発展への希望だけである。法律、条例、事務手続きはすべて無視であるが、議会多数派(自民党)は言い訳の意見を述べながら賛成し、市民を裏切った。

8、Jリーグにほど遠い・無名のとちぎシティフットボール クラブの専門学校（アカデミー）に学生が集まるのか？

関東リーグに所属する無名に近い栃木シティフットボールクラブのアカデミーに学生が集まるのか疑問である。小学校がなくなり寂しくなった場所に専門学校ができ、活性化して「いいね」の声も当初あった。しかしJ1、J2なら資金力も、指導スタッフも揃えられますが、誰も知らないシティフットボールアカデミーに学生が集まるとは考えられない。

2、3年でアカデミーを断念し、転売という可能性も考えられます。登記をして所有権を獲得すれば市として何にも言えない。そんなことを絶対に許してはダメ。

心配事・・・学生が集まらないために経営不振の結果・・・転売の心配。

9、市民の怒りを集めて、無償譲渡の住民監査請求を

サッカースタジアムの無償貸し付け(年間1300万円)と固定資産税(年間300万円)の無料化で住民監査請求を122人を出して監査審議中である。

第2弾として学校の建物敷地約1億5千万円の無償譲渡について、住民監査請求を準備している。当然行政裁判も視野に入れなければならない。

市民財産の無料譲渡…ウソでしょう？…

旧小野寺北小1億5千万円の無料進呈決まる

…市長への怒り、議会への失望感… 議会も地に落ちた

「白昼堂々のペテン師議会だ」…

傍聴者の非難・怒りの…声、声、声

議員は、賛成した説明責任を果たす義務あり

令和3年度予算は、新型コロナウイルスの影響で市民税は

12億3千万円の減収です。「アー、それなのに、それなのに」

市長は1億5千万円を無料で進呈する気前良さ、

日本理化へのサービス額合計額…約4億5千万円になる

「俺の税金・まけてくれ」、真剣に考えて当然です。

市民を忘れた栃木市行政…市長に未来はない…と叫ぼう！

10、岩舟地域の総力を結集し建設した旧小野寺北小学校

地域のシンボルとして残すことを今考える時

岩舟地域の総力を結集し建設した旧小野寺北小学校です。地域のシンボルとして140年以上6000人余の卒業生を送り出したシンボリック的存在だった。

今、一企業に無料譲渡とはあまりにも市民の感情を逆なでしたやり方である。情けない。地域に開放し、地域のシンボルの輝きをもう一度取り戻すことが必要だ。年間維持費は140万円ぐらいた。地元こそ開放すべきである。